

2020 年度学校自己点検・自己評価報告書

2021 年 5 月

学校法人 ISI 学園 専門学校 東京ビジネス外語カレッジ

2021 年 5 月作成

目 次

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等	1	基準 4 教育成果 専門課程	16
1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか.....	1	4-18 就職率(卒業生就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか.....	16
1-2 学校の特色はなにか.....	2	4-19 資格取得率の向上が図られているか.....	16
1-3 学校の将来構想を抱いているか.....	2	4-20 退学率の低減が図られているか.....	17
基準 2 学校運営	4	4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか.....	18
2-4 運営方針は定められているか.....	4	基準 5 学生支援 専門課程	20
2-5 事業計画は定められているか.....	4	5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか.....	20
2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか.....	5	5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか.....	21
2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか.....	5	5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか.....	22
2-8 意思決定システムは確立されているか.....	6	5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか.....	22
2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか.....	7	5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか.....	23
基準 3 教育活動 専門課程	9	5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか.....	23
3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか.....	9	5-28 保護者と適切に連携しているか.....	23
3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか.....	10	5-29 卒業生への支援体制はあるか.....	24
3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか.....	10	基準 6 教育環境	26
3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか.....	11	6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか.....	26
3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか.....	12	6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか.....	27
3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか.....	12	6-32 防災に対する体制は整備されているか.....	27
3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか.....	14	基準 7 学生の募集と受け入れ	29
3-17 資格取得の指導体制はあるか.....	14		

7-33	学生募集活動は、適正に行われているか.....	29
7-34	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか.....	30
7-35	入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか.....	30
7-36	学納金は妥当なものとなっているか.....	31

基準 8 財務 32

8-37	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか.....	32
8-38	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか.....	32
8-39	財務について会計監査が適正におこなわれているか.....	33
8-40	財務情報公開の体制整備はできているか.....	33

基準 9 法令等の遵守 34

9-41	法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか.....	34
9-42	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか.....	34
9-43	自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか.....	35
9-44	自己点検・自己評価結果の公開はしているか.....	35

基準 10 社会貢献 37

10-45	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか.....	37
10-46	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか.....	38

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-1-1 学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などが、明確に定められているか	4	学校が教育を行う理念・目的・育成人材像などは、当校のホームページ、入学案内書に明示。コース別教育目標も示されている。	理念・目標・育成人材像の浸透は図られている。世界パンデミック下で変容する国際経済社会での教育指針の常なる再検証は必要。
1-1-2 理念・目的・育成人材像を実現するための具体的な計画・方法を持っているか	5	2021年度から2023年度の中期ビジョン戦略マップ「FY2021-2023 中期経営計画」を掲げ、戦略目標・数値目標を達成するための KPI を確立している。	具体的な計画・方法は実行を伴わないと意味がないので、その実行力をきちんと人事評価することで PDCA サイクルを循環させる。
1-1-3 理念・目的は、時代の変化に対応し、その内容を適宜見直されているか	5	3か年に1回時代の変化に対応し、中期計画を立て、本校のバランススコアカード、戦略目標を立てている。	日本人学生、保護者の方を始めとするステークホルダーの方々のニーズを常に吸収するとともに、アンテナを高く張る必要がある。
1-1-4 理念・目的・育成人材像等は、教職員に周知され、また学外にも広く公表されているか	5	教職員には学内に学校法人 ISI 学園の理念が記載された額を掲示しており、学外には学校案内書・ホームページで広く公表している。	教職員にはグループ全社を挙げて行う年度初めのキックオフミーティングで周知徹底されているが、留学生への周知の工夫が必要。

1-2 学校の特色はなにか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-2-5 学校の特色として挙げられるものがあるか	5	2020年5月1日現在、計15か国、310名の日本人・外国人留学生在籍している。毎日がビビッドな環境の中で学習に励んでいる。	就職系では質の高い企業への就職内定率100%を実現させること、デジタル・ビジネスコースの2021年度新設に向けた準備を進める。

1-3 学校の将来構想を抱いているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
1-3-6 学校の将来構想を描き、3～5年程度先を見据えた中期的構想を抱いているか	5	時代の変化に合わせて3年ごとに中期計画を策定し、そこから戦略マップ・戦略目標・KPIそして個人目標へと落とし込んでいる。	経済社会構造、留学生の国際移動の変化など、動きを敏感にキャッチしての授業カリキュラム構成、就労支援や募集活動に活かしている。東京商工会議所学識委員（校長）、スマートシティ・インスティテュート等、外部団体にも参画。

総括	課題及び改善内容
<p>理念・目的・育成人材像が抽象的になるのを避けるため、9 項目の行動指針を策定し具体的な実践をするようにしている。並びに中期計画では上記の理念等を普遍の原理とし、バランススコアカードに基づく戦略マップに落とし込み、戦略目標・数値目標・KPI を明確にし、一人一人の教職員がそれに沿った形で個人目標を半期ごとに立てるようにし、人事考課を行っている。</p> <p>予測できない変化に柔軟に対応するためにもダイバーシティ学校運営を基軸に本校の将来構想を考えている。国際社会のニーズの変化に柔軟に対応しながら、絶え間ない教育改革に努め、日本人学生と外国人留学生が 1:1 で学ぶ環境の整備、そして新たな価値提供を図っていく。</p> <p>新型コロナウイルスの影響によるオンライン授業の実施、学内の情報システムの充実を図りデジタル化を図ることのできた 1 年であったが、今後の更なる変化にも対応できる教育改革を進める。</p>	<p>2021 年度、デジタル・ビジネスコース開設も踏まえ、より優秀な日本人層の拡大を図っていく。</p> <p>日本人学生・保護者・業界・出身高校からの信頼を基盤にしながら、留学生 30 万人計画や日本再興戦略、中核的専門人材の育成といった政府のグローバル人材育成施策に沿った学校創り、運営をさらに加速度的に進めていく。これまでのグローバル社会の概念の変容に注視し、産業・経済構造の変化を見据えたコース構成を進めていく。</p> <p>2021 年度新設のデジタル・ビジネスコースの準備、コロナ禍でオンライン授業等のデジタル化を図ったが、今後更に急な変化が訪れたときにも対応できる教育体制作りを進める必要がある。</p>

基準 2 学校運営

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

2-4 運営方針は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-4-1 学校の目的、目標に基づき、学校運営方針は明確に定められているか	5	『FY2021-2023』中期経営計画をもとに年度ごと戦略目標・数値目標・KPIを策定し、戦略マップに基づいて学校運営BSCを設けている。	今年度は中期3か年計画の最初の年にあたり、前3か年計画が順調に終着したこともあり、それを土台とした新たな改革に着手している。 新型コロナウイルスの影響で修正を余儀なくされた点もあるが次年度に向け新たな経営計画に基づいた運営が必要である。
2-4-2 学校運営方針はきちんと教職員に明示され、伝わっているか	4	全体会議であるキックオフミーティングで説明し、ファイルサーバーにも保存をしていつでも閲覧できるようにしている。	学校内での運営方針は共有されているが、部門間シナジーが完璧に図られているとは言い難い。来期に向けて改善が必要。
2-4-3 学校運営方針を基に、各種諸規定が整備されているか	4	学生スタートブック・教職員ガイドブックにて細かく諸規定を記載し配布している。	設定した諸規定をさらに浸透させるよう努める必要がある。

2-5 事業計画は定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-4 学校の目的、目標を達成するための事業計画が定められているか	4	『FY2021-2023』中期経営計画に基づいて、2020年度の年度目標を設定し、学校の目的、目標を達成するために事業計画を個人目標レベルにまで落とし込んでいる。そして年間スケジュールに沿って事業計画を進めている。	教育の質向上に向けて取り組みを実施している。加えて、ブランディングに取り組んでいる。 現在、新コース準備を進め、また各コースの再編とカリキュラム改革の検討を始めている。 これに合わせて、教育内容の見える化にも取り組んでいる。これらに向けて、さらに検討と実施をしていく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-5-5 学校は事業計画に沿って運営されているか	4	事業計画に沿って運営をしているが、日常の忙しさに埋没してしまい、ルーチンワークをこなすのに精いっぱいになる時期もある。個人の努力で運営をするのではなく、チームで運営していけるよう組織力も強化していく必要がある。	コロナ禍における急な変更や対応に追われる1年であったが、今後に向け変化に柔軟な対応できる適応力の向上が必要である。

2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-6-6 運営組織図はあるか	5	運営組織図はきちんと作成されており、グループウェアでいつでもだれでも確認できるようになっている。	特になし
2-6-7 運営組織や意思決定機能は、学校の目的、目標を達成するための効率的なものになっているか	5	理事会・役員会は定期的開催されており、運営組織・意思決定機能は学校の目的・目標を達成するための効率的なものになっている	特になし
2-6-8 組織の構成員それぞれの職務分掌と責任が明確になっているか	5	役職ごとの研修会で、役割基準の浸透を図り、職務分掌表で教職員一人一人の職務分担が明確になっている。	特になし

2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-9 学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	3	2020年度途中で中途採用により事務職員1名補充となり、組織運営は安定している。	教職員のレベルに分けて階層別に定期的な研修を行っているが、職務別の研修が整備できていない。この点が課題であり今後の改善・検討が必要である。教育の質の高度化に備えた教務人材の確保体制が必要である。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-7-10 人事考課制度は整備されているか	5	人事考課制度は整備されており、具体的且つ詳細なものがグループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-11 昇進・昇格制度は整備されているか	5	人事考課制度に詳細に昇進・昇格制度が記載されており、グループウェアでいつでも閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-12 賃金制度は整備されているか	5	給与規定がきちんと定められており、グループウェアで閲覧できるようになっている。	特になし
2-7-13 採用制度は整備されているか	5	ISI グループのホームページ上で「求める人材」として5項目の条件を明示しており、個々の採用ステップについても明確になっている。	履歴書・職務経歴書による書類審査を通過すればwebによる適性検査を行う。その後面接により「求める人材」に合致するか採用可否を決める。
2-7-14 教職員の増減に関する情報を明確に把握しているか	5	豊島区に教職員の異動があった場合、採用届・解職届を提出しなければならず、教職員名簿も併せて提出している。	特になし

2-8 意思決定システムは確立されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-15 意思決定システムは確立されているか	5	毎週行われる定例会議で審議事項を討議し、最終的に校長の承認を得るシステムが確立されている。	次年度に向け定例会議の他、役職者によるマネジメント会議を実施し意思疎通、意思決定が円滑にできるように改善を図っている。
2-8-16 意思決定プロセスのポイントとなる仕組み(会議等)が制度化されているか	5	毎週行われる定例会議で審議事項を常勤教職員全員で討議し、最終的に校長の決済をいただいて意思決定する仕組みが制度化されている。	次年度に向け定例会議の他、役職者によるマネジメント会議を実施し意思疎通、意思決定が円滑にできるように改善を図っている。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-8-17 意思決定の階層・権限等は明確か、学校運営に必要な人材の確保と育成が行われているか	5	会議体系に加え、日々の稟議に関してはグループウェアで階層別に決裁権限が割振られスムーズに承認を得るシステムも確立している。	学校運営に必要な人材の確保と育成に関して研修制度が導入された。教職員の定着と各教職員の着実なスキルアップを図っていく。 新型コロナウイルスの影響により内外を含め、オンラインによる研修に参加できる機会が増えた。今後こういった研修の増加も見込まれるため積極的に活用していきたい。

2-9 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
2-9-18 業務効率化を図る情報システム化がなされているか	5	情報システム化がなされ、時間的なロスが少なく効率化が図られている。また業務の見える化を進めており、個々の作業効率アップが図られている。 2020年度中に情報システムの強化により学内の学生が利用できる Wi-Fi 環境の整備、コロナ禍を機にオンライン授業も対応できる各教室にプロジェクター、ウェブカメラ、スピーカー等の設置を行った。	次年度に向け、学生の各種申請が Campusmate-J を使用しオンライン上でできることにより更なる学生の利便性が向上にするが、取り扱う教職員のスムーズな対応が必要である。 通信機器の整備後、インターネット通信が不安定なときも時折見受けられたため、学生全員が対面授業となり登校した際も授業支障がないための対策を講じたい。

総括	課題及び改善内容
<p>今後展開が拡大するであろう企業連携などの諸規定整備も進めていき、明確でスムーズな学校運営に努めていきたい。</p> <p>学校の目的・目標を達成するための事業計画をきちんと立て、バランススコアカード（BSC）に落としこみ、その計画にそって運営している。より状況を掴むため会議などでチェック・修正・改善できるよう運用面も工夫したい。</p> <p>学校法人 ISI 学園並びに ISI グループでは、人事や賃金、処遇に関する制度は整備されている。また学園で使用しているグループウェアにそれら諸規定が保存されており、いつでもだれでも閲覧できるようにしている。</p> <p>勤務管理や交通費精算から稟議書までありとあらゆる業務を、グループウェアの E-SYSTEM を活用し、情報システム化による業務の効率を図っている。学生管理ではスクールリーダーを活用しているが OS の関係上、2019 年度からは CampusMate-J に移行した。</p> <p>2020 年度は Campusmate-J を年度当初から活用し、学生情報の共有等が円滑になったが、次年度の改良に伴い更に利便性の向上により学内の連携に期待したい。</p>	<p>今後多様化する学生ニーズに応えるためにも、新規事業としての拡大を見越した諸規定整備を進めていく予定である。</p> <p>事業計画に沿って運営されているかチェック・修正・改善を図る時間をきちんと設け、完全な形で運用できるように努力していく。</p> <p>学校運営に必要な人材の確保と育成は課題として認識している。部門別研修制度による常勤教職員の着実なスキルアップ並びに全体のレベルアップを図ることが出来る制度であるが運用には改訂の余地がある。</p> <p>2019 年度にはグローバルビジネス学科が職業実践専門課程の申請を行い、2020 年 3 月に認定されている。</p> <p>2020 年 3 月に職業実践専門課程に認定されたグローバルビジネス学科の今後の更なる企業等との密接な連携に繋げていきたい。</p>

基準3 教育活動 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-10-1 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	4	本校では、GBC 総研主催「教育課程編成委員会」をはじめ、授業において、連携している企業・専門家の支援を受けて、業界の動き・ニーズ、求める人材像について情報収集をしている。それに合わせて、カリキュラム、科目についてチェックしている。 学内において、定期的カリキュラム編成のための部会を設置し、各学科コースのカリキュラムについて検討している。	これまで以上に、経済社会ニーズに合わせて、弾力的に運用できるカリキュラム・科目変更を実施していく必要がある。特に、今回の新型コロナによる経済社会変化、そのインパクトは非常に大きいこともあり、取り組みに力を入れていく。

3-11 各学科の教育目標、育成人材像を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-11-2 各学科の教育目標、育成人材像を養成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルとして、明確に定められているか	4	本校では、カリキュラムをもとに、シラバスを策定し、そこにおいて、各科目の到達目標を設定している。その目標に向かって、段階に応じての小目標も設定している。 各目標は、業界からのニーズ、求める人材像を念頭において策定している。 目標結果が見えるように、資格試験受験を導入している。TOEIC、ビジネスマナー、日本語能力試験、医療分野の関連資格試験といったものが挙げられ、合格に向けて指導している。	業界の求める人材の変化、必要とされる技能も増えており、それに合わせた教育目標と教育実施が重要になっており、短いサイクルでの変更が求められている。 また業界の求める技能の証明としての資格や学習歴について、さらに検討をしていく必要がある。

3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-3 学科のカリキュラムは、目標達成に向け十分な内容でかつ体系的に編成されているか	4	本校では経済社会のニーズに対応できるように編成し、在籍期間中、スムーズに指導・学習できるようにしている。	定期的カリキュラム、授業科目を見直していく必要があるため、引き続き、検討・改定をしていく。 現在、学内でデジタル化による教育の質向上の取り組みを行っており、次年度も継続して実施していく。
3-12-4 カリキュラムの内容について、業界など外部者の意見を反映しているか	4	学内にてカリキュラム検討会（各種の科目担当者会議にて）を実施している。その結果を外部機関（企業、GBC 総研等）から意見を聞き、カリキュラムに反映させている。	今後も企業関係者からの業界情報や求められる人材像を確認していく必要がある。 本校では、企業との連携や業界関係者による授業や講演を通して、実施しており、今後も継続していく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-12-5 カリキュラムを編成する体制は明確になっているか	4	本校の各学科コースのカリキュラムは学内の教職員による検討会（教務会議、科目担当者会議等）で検討し作成している。	継続して、学内で科目担当者会議を開き、カリキュラムの検討会を実施しているところである。
3-12-6 カリキュラムを定期的に見直しているか	4	定期的にかリキュラム内容の見直しを行い、新年度にて、新カリキュラムとして実施する流れにしている	今後も検討・修正をしていく必要がある。毎年、成果分析を行い、修正・改善、新規導入に向けて、検討をしていく。

3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-13-7 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置づけをされているか	4	科目について、毎年、内容確認・検討を重ね、必要な場合、修正・新科目の設定等を行っている。 2020年度では、新型コロナ対応に向けての教育現場でのICT活用も導入したが、その視点からの改善を行った。	引き続き、科目と内容の確認を行い、検討しつつ、定期的に改定している。今後も社会のニーズとマッチングさせる必要がある。 今年度の新型コロナによる授業体制の変更に係して、外部環境の変化に影響を受けないよう、教育方法を考えながら、教育の質を維持・向上のできるカリキュラムの検討していく。
3-13-8 各科目の指導内容、方法等を示したシラバスが作成されているか	5	昨年度、カリキュラム、シラバス関係について、内容、フォームについて、改定を行った。本年度は、これをもとに作成実施し、内外への公開を行った。	今後も質の高い教育を実現するために検討を続けていくが、授業科目が多様化しており、シラバス作成に検討に時間がかっている。この点を解決すべく、シラバス内容・作成方法について、さらに検討をしていきたい。
3-13-9 各科目の一コマの授業について、その授業シラバスが作成されているか	5	毎年、前期・後期にそれぞれ、研修会を実施し、教育目標の確認、シラバス作成についての指導を行っている。	昨年度改定したシラバスシートを継続して利用しているが、今後も改善に取り組んでいく。

3-14 授業評価の実施・評価体制はあるか

点検小項目	評価	評価	現状・具体的な取り組み
3-14-10 学生による授業評価を実施しているか	5	昨年度と同様に、前期と後期の2回、「学生満足度アンケート」を実施している。学生にわかりやすいアンケート内容を検討し、実施している。	従来のQRコードに変わり、専用のアンケートHPを利用し、アンケート回答がしやすいように努力している。
3-14-11 授業内容の設計や教授法等の現状について、その適否につき学科や学校として把握・評価する体制があるか	4	アンケート項目において、授業評価、授業満足度について確認できるように検討し、関連項目を入れている。	今年度は、オンライン授業についてのアンケート項目を追加し、実施した。今後も、状況に応じて、アンケート項目・内容を変更・修正していきたい。

3-15 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-12 学科の育成目標に向け授業を行うことができる要件（専門性・人間性・教授力・必要資格等）を備えた教員を確保しているか	4	本校では、教員・講師採用において、本校での勤務に見合う人材の選定をしている。単に学歴・経歴だけでなく、学生とのコミュニケーション力といった点も考慮して選考している。	教員ガイドブックを作成し、本校の理念・教育目標を理解してもらっている。同時に、採用方法について、より強化し、優秀な人材の確保育成に力を入れている。
3-15-13 教員の専門性レベルは、業界レベルに十分対応しているか	4	授業科目の専門性にあった教職員募集に力を入れている。加えてデジタル化に対応できる人材登用に力を入れている。	現在、本校にて勤務している教員に、情報リテラシーの強化を行い、本校のデジタル教育体制に向けて強化しているところである。
3-15-14 教員の専門性を適宜把握し、評価しているか	5	本校では、専門性及び学校勤務の適性関係について厳しく見ている。加えて、ICT関係についてのノウハウ、及びそれについてのリテラシー意欲も見ている。	評価方法について、評価項目、内容等、多方面から評価・判断できる方法を検討し、改善している。これにICTによる教育についての知識、ノウハウ、取得への努力・意欲等も加味していく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-15-15 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	5	学校主催にて、研修会を年 2 回実施している。今年度より、オンライン授業方法、教育のデジタル化について研修を実施した。	今後は、従来の研修に加えて、デジタル化についての研修を増やしていく。
3-15-16 教員の教授力(インストラクションスキル)を適宜把握し、評価しているか	4	教授力の把握について、年度内で 2 回実施の満足度・授業評価アンケートを実施している。この結果をもとに、授業理解度、満足度等を確認し、研修会や担当講師との面談等を実施している。	今年度は特に ICT 関係での授業、それによる教授力の向上に力を入れ、それについて評価した。今後もこの点を重視していく。
3-15-17 教員の教授力(インストラクションスキル)を向上させる研修を行っているか	4	本校では、学習分野、科目ごとでのミーティングを定期的実施し、教授力アップに力を入れている。	今年度は、オンライン授業方法についての指導方法、教授力アップに力点が置かれた。本校では、デジタル化推進をしており、科目や学習分野にとらわれず、全員のデジタル化関係での教授力アップをしていきたい。
3-15-18 教員間(非常勤講師も含めて)で適切に協業しているか	4	科目・分野間でのミーティング等での連携が取れている。同時に、本校の教職員による全体での交流、中核講師による横の連携・支援ができている。	今後、教育内容や授業科目が多様化し、デジタル化が進められるため、一層の交流・連携が必要になる。
3-15-19 非常勤講師間で適切に協業しているか	4	本校では、学科コース内、及び科目間で担当、コース長による対応をしている。加えて、経歴の長い講師による支援体制がある。今年度はオンライン授業対応に向けて、教職員間での相互支援が見られた。	今年度は、オンライン授業体制が急務だったこともあり、従来の協業体制だけでなく、広く助け合うことが見られた。結果、協業体制が強化されたが、これを活かして組織強化をしていく。
3-15-20 非常勤講師の採用基準は明確か	5	本校では、講師の採用には非常に厳しい基準(授業力、人間性、本校理念との適正等)で臨んでいる。	授業科目を適切に指導できることに加えて、デジタル教育に強く、学生管理のできる人材の確保・育成にさらに力を入れていく。

3-16 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-16-21 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	5	本校では、成績及び単位認定評価について、明確な基準にて行っている。 年2回の期末試験を実施し、試験点、出席点、平常点による総合的な成績評価、及び単位認定を行っている。	成績・単位認定について、より明確化のため、GPA評価を利用している。学内表彰、奨学金等の利用にて、効果が出ている。
3-16-22 他の高等教育機関との間の単位互換に関する明確な基準があるか	5	提携大学との単位互換・単位認定ができるように、検討を続けている。 昨年度の評価方法改善・GPA制度導入等により、国内外の高等教育機関との単位互換・同認定がスムーズになっている。	引き続き、評価・認定については、内容やフォームの標準化・明確化を進めている。

3-17 資格取得の指導体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
3-17-23 目標とする資格はカリキュラムの上で明確に定められているか	5	毎年、学園にて、教育目標を定めている。これをもとに、各ポリシーを作成し、学科コース、カリキュラム等の、目標・資格を設定している。	経済社会状況の変化に合わせて、定期的カリキュラムの見直し、関連資格の設定、といった機会を作り、教育目標・資格等について検討をしている。 本校では、各コースに見合う資格について検討を重ねている。
3-17-24 目標とする資格の取得をサポートできる教育内容になっているか	5	本校では、カリキュラム・授業において、目標となる資格を設定している。これに基づいて、授業においても、資格の学内受験対策を実施している。現在、教育のICT化として、googleclassroomによるe-learningもさらに強化している。	毎年、ターゲットにする資格を検討し、学生への告知、指導を続けているが今後も、強化していく。

総括	課題及び改善内容
<p>本校では、一定期間ごとに、教育目標を検討し、カリキュラム・授業内容を見直している。特に、経済社会情勢の変化、それに伴う求める人材像の変化に対応できるようにしていくことが重要になっている。近年、学習成果が見える形にしていくことから、資格取得や学習成果の見える化を推進しているところである。</p> <p>また学生サイドからの学習についての評価について、アンケートを実施し、その結果を分析し、本校の教育体制に活かすようにしている。</p> <p>今年度は新型コロナによる影響もあり、教育体制に大きな影響を与えることになったが、本校では、ネット環境整備をはじめとするデジタル教育環境構築を行っていたこともあり、オンライン教育などのデジタル化を進めることができた。一方、教育の質の維持・向上、それについての学生の感想、ニーズ等を確認し、より教育を進めていきたい。</p>	<p>総括にあるように、本年度は、新型コロナによる外部環境の大きな変化により、これまでの教育体制では対処できないことが多かった。このため、本校の教育目標、教育内容、質を維持できる教育体制づくりと実施に奮闘する年となった。結果として、従来から進めてきたデジタル環境構築が進み、その中での授業（オンライン授業、デジタル教育体制）が実現できたが、さらにレベルを上げ、より質の高い教育を提供できるよう、努力していく必要がある。</p> <p>今後は、教職員の ICT 等の情報リテラシー強化、教育環境のデジタル推進、そして本校の学生のデジタル教育を受けられるよう、関係することについての教育・指導に一層力を入れていく予定である。</p>

基準 4 教育成果 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

4-18 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-18-1 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	4	ISI グループにて、キャリアセンターを設置し、就職・進学関係の支援・指導に力を入れているところである。また本校に、キャリア指導の職員を常駐させ、進路指導対応ができる体制になっている。	就職希望者の希望する業種が多様化しており、それに応じることができるように、業界分析・企業開拓・求人数増加をしていく。 同様に、留学生のための求人増も行っていく。
4-18-2 就職成果とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	進路結果について、定期的に動向がわかるように、情報収集・整理と、分析できるように、様式、データ整理ができています。	学生との定期面談、連絡、報告体制を整備しており、情報の把握・内容更新ができるように努めている。

4-19 資格取得率の向上が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-3 資格取得率の向上が図られているか	4	本校では、学校全体で語学分野、特に英語能力向上として、TOEIC 受験・スコアアップ指導を強化している。年 1 回以上、TOEIC 試験を実施している。また留学生は年 2 回の JLPT 各級合格に向けて、指導している。 各学科コースでは、ビジネス関係ではビジネスパスやマナー検定・簿記を、医療系では、医療通訳士、医療事務検定の受験に力を入れている。また留学生は日本語能力試験対策の指導を実施している。	英語、日本語について、学力差があり、数クラスを設置して対応している。 各学科コースにおいて、業界が求める人材が多様化していることもあり、ターゲットの資格が増えていることが課題になっている。増えていることにより、受験料の負担が重くなっており、資格の選別が必要になっている。 上記以外に、現在、学習成果の一つとして、学習歴の見える化に向けて、検討しているところである。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-19-4 資格取得者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	4	資格取得状況は、定期的に確認し、個々の獲得状況について整理できるようなファイルを作成し、状況を把握できるようにしている。	現在、面談やアンケートといったことを通して、取得状況を把握しているが、CampusmateJなどの導入により、自分でも取得申請ができるようになってきている。

4-20 退学率の低減が図られているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-20-5 退学率の低減が図られているか	4	本校では、入学後、学生と面談、目標設定等を通して、学業意欲の維持・向上に向けての努力をしている。定期的な面談を実施し、卒業まで、学習生活、進路相談等を行いながら、学生支援を行っている。	本校では、日本人・留学生在籍しているが、ともに細かい支援指導が必要になっている。 日本人学生の場合、目標変更に伴う学習意欲の低下、退学が見られる。 一方、留学生の場合、支弁関係での変化や日本での生活における不安定なことより、学業継続が難しくなることが目立っている。 上記の問題課題について、日々の様子の確認、面談等を通して、早期の発見と解決への支援をしていくことが求められている。
4-20-6 入退学者数とその推移に関する情報を明確に把握しているか	5	本校では、管轄の豊島区、東京入国管理局に在籍についての情報を提出しており、定期的に人数を把握できる体制になっている。 不明な点も含めて、常に関係機関への連絡・相談をしているところである。	昨年度と同じく、定期的に豊島区、東京入国管理局（留学生）に退学者数、その推移を提出していると同時に、退学者を減らす各種の指導を実施している。支弁能力を正確に把握していくことが重要になっている。

4-21 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
4-21-7 卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	本校では、卒業生との交流のできる同窓会を設置している。また HP などからも本校への連絡ができるようになっており、卒業生との交流に力を入れているところである。また上記の補助的なものとして、担任や教職員との SNS も活用している。	卒業生の活躍の場所が日本国内だけでなく、海外にも及んでおり、把握しにくいところがある。また日本国内でも、転職や勤務地が変わることも多くなっており、タイムリーでの把握が難しいところである。同窓会機能の強化を検討していきたい。このミッションの担当を重要業務の一つとする TBL 新卒生の採用を決定した。
4-21-8 卒業生の例として特筆すべきものを記述できるか	3	現在、大きく取り上げるものはまだないものの、起業し、自らが HP や SNS で情報提供するケースが見られるようになった。	今後は、起業や卒業生の活躍についての情報を把握しながら、在校生をはじめ、TBL 関係者に広く知ってもらおうようにしていきたい。
4-21-9 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価されたか	3	本年度は新型コロナ関係にて、各種のイベントを自粛することになった。このため、小さい単位での発表会、オンライン授業でできる範囲内でのプレゼンに留まった。	本校では、新型コロナの影響があることを前提にしつつ、できる範囲内でのことを行うと同時に、外部での催し関係にて、参加できる可能性のあるものは積極的に、学生に勧めていきたい。
4-21-10 在学生や卒業生の作品や発表が、外部のコンテスト等で評価された例として特筆すべきものを記述できるか。	2	今年度は、新型コロナの影響により、目立った動きをすることができなかった。また中止も多く、非常に厳しい年になった。	厳しい状況下にあったが、在校生たちの学習意欲は高いものであった。本校では、この学生の高い意欲を活かせるような方向に持っていきたい。

総括	課題及び改善内容
<p>本校は専門学校として、優秀な人材を社会に送り出すための社会人教育の場であることを自負し、学生と関係を密にして、キャリア指導を実施している。</p> <p>その成果として、就職内定数（率）の増加は、本校の最重要な位置づけとしている。2020年度は、新型コロナの影響のため、非常に厳しい環境下で、学生たちは活動していた。このため、本校のキャリアセンターでは、学生指導支援に一層力を入れて行っていた。昨年度より低い成果とはなったが、一定の成果と次年度につながる諸活動を実施した。</p> <p>前提となる学習関係では、成果がわかるように、「見える化」をキーワードに、資格取得、学内プロジェクト、学習履歴等に取り組んだ。プロジェクト関係は、新型コロナ感染対策のため、最低限度に留めたが、資格取得関係では、積極的にトライしてもらい、取り組みを行った。</p> <p>次年度以降は新型コロナの影響はあることを前提にしつつも、教育の質の維持向上のできることに取り組んでいきたい。</p>	<p>2020年度は、新型コロナの影響もあり、求人数の激減、就職活動の困難さが目立った中での、支援状況であった。オンライン指導による説明会参加や面接対応練習、企業への連絡・求人機会増に力点を置いた。学生自身もめげることなく、頑張ったといえよう。この中で、求人件数の多かった業種での激減が大きなマイナス要因となった。今度は求人関係の業界・業種を増やすことが急務である。日本人就職支援では、より早い段階での指導支援体制作りと実施を行っていく。また留学生関係では、ビザに関する法令改正による就業状況も大きく変わっており、支援指導体制も大きく修正し、改善していく必要がある。</p> <p>次年度は、キャリアセンター支援部門が現場と直接連携できるようになるため、学生指導支援がこれまで以上に、学生と近いところできるようになると思われる。</p>

基準5 学生支援 専門課程

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

5-22 就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-22-1 学生の就職・進学指導に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	キャリアセンターを設け就職・進学ともに適正人員を配置し、授業や個別相談体制を敷いている。	キャリアセンター職員の異動などで年度途中支援体制が脆弱となったが、後期には人員も固まり支援体制が改善した。
5-22-2 就職に関する説明会を実施しているか	4	キャリアセンター・担任による就職ガイダンス、合同企業説明会を定期的に行っている。	コースによって実施回数が異なるため、企業や求人を精査し、年間スケジュール化する必要がある。
5-22-3 就職に関する学生個別相談を実施しているか	4	1年次は前期と後期の年2回実施。2年次は随時キャリアセンター職員並びに担任が学生個別面談を実施している。	特になし
5-22-4 就職の具体的活動(履歴書の書き方など)に関する指導を実施しているか	4	就職希望者に対してキャリアデザイン、就職指導、PCの授業内で履歴書の書き方や面接の仕方に関する指導を行っている。	留学生に対して、日本独特の就職活動を理解させる必要がある。キャリアデザイン授業等で日本文化の背景及び慣習を教えるカリキュラムを策定する。

5-23 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-23-5 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか	4	全クラス担任制を敷き、個別面談も年に4回実施している。加えて事務局でも学生相談に乗る体制を整備し、有効に機能している。 事務局でも学生相談、人権に関する研修に積極的に参加し実際の学生相談に活用できるよう努めている。	まだまだ学生相談に関する体制は個人のスキルによるところが多く完全なものとは言い難い。今後専門相談員の配置を検討していく。 引き続き、学生相談に関わるカウンセリング等の研修等に教職員が参加する機会を増やし、学生相談に役立てたい。
5-23-6 学生相談室を開設しているか	3	個別に相談できる相談ブースと会議室を併用して運用している。担任による個別相談は行っている。 2020年度にあってはオンラインでの個別面談も実施した。	プライバシー空間は会議室のみなので、会議等で使えないこともある。計画的な運用を検討。
5-23-7 学生からの相談に応じる専用カウンセラーがいるか	2	キャリアコンサルタントは常時いるが、その他専門カウンセラーはいない。担任による個別相談を中心にカウンセリングを行っている。	メンタル面での不調を訴える学生も増えてきているので、専用カウンセラーもしくは専門の研修を受けた職員の配置が必要である。
5-23-8 留学生に対する学生相談体制は整備され、有効に機能しているか	4	外国人留学生が在籍していることから留学生に対する学生相談体制は教務・事務局連携の下、体制は整備され、有効に機能している	留学生のメンタル面での相談体制はまだ脆弱で、医療機関と連携しながら留学生のメンタル面の相談に乗れる体制構築が必要。

5-24 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-24-9 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか	3	経済的側面だけではない学費減免制度を設け、学生の経済的側面に対する支援を全体的に整備し、有効に機能させている。 文部科学省よる修学支援の新制度が2020年度から始まり、学内の減免制度に加えて経済的サポートが充実した。	学生の経済的状況に特化した支援制度が未整備のため、高等教育段階における負担軽減制度を機に整備していく。
5-24-10 奨学金制度が整備され、有効に機能しているか	4	2年次になるときに、審査の上認められた一部の学生に対し特別学習奨励費を支給している。公的な奨学金制度の活用も併用している。	特になし
5-24-11 学費の分納制度等、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能しているか	3	学費の分納制度は設けられており、学生を経済的に支援する制度が整備され、有効に機能している。	特になし

5-25 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-25-12 定期的に健康診断を行うなど学生の健康面への支援体制はあるか	5	外部の医療機関に委託をし、年に1回学校に来校いただき、全学生の健康診断を実施している。	特になし
5-25-13 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか	4	学生の健康管理を担う組織体制は事務局で分担しており、事務局が主体となって学生の健康診断を実施している。	事務局で学生の健康管理を担っているものの、日常的な健康相談には乗れないため、学校医や地域医療機関との連携が必要である。
5-25-14 学生からの健康相談等に専門に応じる医師・看護師等がいるか	3	学生からの健康相談等に専門に応じる学校医はいるが、こちらからの要請に応じて対応する体制である。	学校医はいるが常勤ではなく、こちらの要請に対して対応する状況なので、今後体制の見直しも検討する必要がある。

5-26 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-26-15 スポーツ等のクラブ活動、ボランティア活動その他、課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか	2	学生サークルでは「英語サークル」がこれまで積極的に活動していた。また、地域の豊島区役所、目白警察署と連携して語学支援ボランティアに取り組んでいたが、2020年度はコロナ禍により従前のサークル活動等ができない状態であった。	サークル活動は英語サークルのみの活動であるが、今後スポーツ系のサークル活動も立ち上げ、支援していきたい。 コロナ禍の長期化に伴い、今後はオンラインでも活動可能な内容も検討する必要がある。

5-27 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-27-16 遠隔地出身者のための学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	5	ISIグループで学生寮2棟を備えており、遠隔地出身者のために支援を行っている。寮の管理人もおり、生活環境適応支援も行っている。	現状、学生寮を使用する学生が少なく、生活環境支援としては整っているが、あまり活用されていないのが現状。

5-28 保護者と適切に連携しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-28-17 保護者と適切に連携しているか	3	日本人学生については担任と保護者とが日常から連携しているが、外国人留学生の保護者とは連携するに至っていない。	外国人留学生だから保護者と連携できないと考えるのではなく、外国人留学生だからこそ良い面も悪い面も含めて保護者と連携しなければならない。

5-29 卒業生への支援体制はあるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
5-29-18 同窓会が組織化され、活発な活動をしているか	3	今年度同窓会組織を立ち上げ、TBL 祭にホームカミングデーとして OB 会発足式を実施。	今年と同窓会組織の立ち上げを行ったが、今後は、卒業生の自主的な活動を支援し、広げていくようにしなければならない。このミッションを担当することを業務の一つとする TBL 新卒者の採用を決定した
5-29-19 卒業生をフォローアップする体制が整備され、有効に機能しているか	3	同窓会組織を立ち上げたが卒業生をフォローアップする体制がまだまだ未整備。毎年学園祭に卒業生が来校できるよう整えていく。	卒業生のポータルとなる HP の整備は行ったが、卒業生が積極的に参加できるイベントなどを更に充実させていきたい。このミッションを業務の一つとする TBL 新卒生の採用を決定した。

総括	課題及び改善内容
<p>就職については就職希望者内定率 100%から逆算し、カリキュラム化、シラバス作成を推進している。そして効果的な説明会をどのタイミングでするか戦略的思考が必要である。</p> <p>すべてを教職員で対応しようと思うと、特にメンタル面での不調を訴える学生への対応は難しくなり、やはり専門的な研修を受けるなり、専門カウンセラーによる相談体制等の整備が必要になってくる。ただ教職員と学生の距離が近く、面倒見の良い点は本校の特徴でもある。</p> <p>英語サークルが積極的に活動している。また、地域の官公庁、企業、地域団体とともに語学支援ボランティア活動も積極的に行っており、地域における本校の社会的評価、並びに学生の地域貢献に対する意識変革が急速に高まってきている。</p> <p>日本人学生については学校生活や出席状況で保護者と連携を取れているが、外国人留学生の場合は学校に来なくなった等何か問題が発生してからでないと連携できていない。遠い異国の地からご子息をお預かりしているという教育的責任を果たすため、外国人留学生の保護者についても連携の在り方を再検討しなければならない。</p> <p>就職についてはコロナ禍で厳しい状況ではあった。今後も長引くコロナ禍を見越して戦略的な就職指導が必要である。</p> <p>長期的なコロナ禍の中でサークル活動が以前のようにできない状況下でもオンライン等を活用してできるサークル活動等を構築していく必要がある。</p>	<p>キャリアセンタースタッフと担任とが連携した学生指導を確立させ、毎年就職内定率 100%を実現していくために、社会のニーズに合わせて就職指導内容を改善していく。</p> <p>カウンセリングの研修や専門カウンセラーによる相談体制を整えるのも急務であると考えている。</p> <p>高等教育の修学支援新制度（無償化制度）の対象校となり、支援制度を充実させることができている。</p> <p>本校は外国人留学生も在籍しているため、日常的には保護者との接点を持ちにくい面もある。今後の検討課題である。</p>

基準 6 教育環境

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

6-30 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-30-1 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	5	本校ではすべての教室に電子黒板を導入し、教育のICT化を整備している。また、全館WIFIが整備され、十分な環境が整っている。 2020年度中、キャンパスのリニューアル工事を行い、教室、受付、事務室の全面改装工事を行った。また全館でのWIFI環境の強化を図った。	電子黒板やネットワーク施設をフル活用するために教員・講師がICT環境を活かした授業展開をし、教育の質の向上に努めたい。
6-30-2 施設・設備のメンテナンス体制が整備され、有効に機能しているか	4	法定点検、日常メンテナンス共に体制は整備されている。校舎の耐震診断が完了しているため、2020年度中に耐震工事の予定がコロナ禍の影響で2021年度に延期となった。	日常メンテナンスに関してはルーティンでチェックできる体制が整っている。これからは耐震工事に向けて準備を進める必要がある。
6-30-3 施設・設備の更新に関する計画を立て、計画通りに更新しているか	4	法定点検は、指摘事項に則り計画的に遂行している。今年度は高圧電気設備キュービクルのリニューアル工事が完了した。 2020年度中に施設（教室、事務室等）リニューアル工事を行い、完了した。	次年度は延期となっていた耐震工事を計画している。

6-31 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-31-4 学外実習、インターンシップ、海外研修等について外部の関係機関と連携し、十分な教育体制を整備しているか	4	グローバルビジネス学科 2 年次にシンガポールの MDIS、フィリピンセブでの集中英語研修など、教育体制を整備している。また、ハンガリーのメトロポリタン大学への交換留学が今年度も実施され、定着したものとなって来ている。開設前ではあるが、デジタル・ビジネスコースにおいては英国・ミドルセックス大学との 2+2 留学制度の合意が成立した。	今年度は、新型コロナ影響のため、途中帰国や中止・延期が見られた。 このようなことから、国内からでも学習できる方法（オンライン留学）も検討する。同時に、このような外部環境変化に屈することなく、提携先を増やしていきたい。
6-31-5 学外実習、インターンシップ、海外研修について、その実績を把握し教育効果を確認しているか	4	学外実習やインターンシップ共に定期的に報告を受け、教育効果を確認している。	今年度は、学外学習やインターンシップの中止・延期のため、限られたものだけになったが、次年度は、企業、その他の外部機関と連携して、数を増やしていきたい。

6-32 防災に対する体制は整備されているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-6 防災に対する体制は整備され、有効に機能しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年 1 回通常は実施しているが、新型コロナウイルスの影響により 2020 年度は避難訓練の実施ができなかった。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCA サイクルを着実に回していく。 次年度はコロナ禍でも実施可能な避難訓練または防災教育ができるよう努めたい。
6-32-7 災害を起こす可能性のある設備・機器等の情報は十分に伝えられているか	4	法定点検にて指摘された事項に則り、整備を行っている。担当者から関係者に周知、共有していく体制を整備している。	校舎の老朽化並びに設備・機器の経年劣化に伴う災害を起こす対象を関係者で把握し、全教職員が認識する体制整備が必要。
6-32-8 実習時等の事故防止の体制は十分か	3	本校は語学・ビジネスの専修学校ということもあり、実習時等の事故は考えにくいだが、学生保険に加入するなど事故対策を取っている。	実習時の事故は考えにくい分野ではあるが、事故防止に対して常に気を配る体制整備をしていかなければならない。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
6-32-9 万が一の災害が起きた場合に備えた保険等の処置は十分なものとなっているか	3	通学途中・教育活動中の事故に関する損害賠償保険には学生全員加入している。また、本部と連携した防災組織も整えている。	災害被害に対しての保険が免責事項もあり、今後更に補償範囲の広い保険への切り替えも検討したい。
6-32-10 防災訓練を実施しているか	4	防災に対する体制は、整備されている（体制図、避難経路、備蓄等）。地元警察や消防署と連携し、避難訓練も年1回実施している。	整備された防災体制を有事の際に活かす為にも、実践に即した訓練を行い、PDCA サイクルを着実に回していく。

総括	課題及び改善内容
<p>2020年度は海外研修に参加する母数は少ないものの、グローバルビジネス学科の海外研修は他にはない訴求力のあるプログラムとなっている。英語キャリアの短期留学も着実に実績を積んでいる。インターンシップもカリキュラム化されており実施も安定している。</p> <p>年に1回防災訓練を実施し、地震が発生し校内で火災が発生したという前提で指定避難場所までの避難訓練を行ってきた。訓練は校舎全体で行っており、地元の目白警察署の誘導も協力を得ながら行っている。また、AED講習や煙体験など豊島消防署の協力のもと訓練講話もいただき、地域と連携した防災訓練を図ってきた。</p> <p>これまで年1回行っていた防災訓練は新型コロナウイルスの影響により2020年度は実施できなかった。</p>	<p>今後、施設面として、校舎の耐震化工事に着手しなければならないが、学園本部と連携して次年度以降に向けて計画的に準備していく。</p> <p>更にインターンシップの比率を増やしながら、体系だったカリキュラムとデュアル教育の展開を図っていく。</p> <p>次年度はコロナ禍でも実施可能な避難訓練または防災教育ができるよう努めたい。</p>

基準 7 学生の募集と受け入れ

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

7-33 学生募集活動は、適正に行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-33-1 学生募集活動は、適正に行われているか	5	適切な情報提供や、問合せ・資料請求への即時対応、定期的なイベント開催、コロナ禍のオンラインを活用した活動、学校への訪問活動など、学生募集活動は適正に行われている。	コロナ禍でのオンライン対策や高校の進路指導とそのスケジュールと連携するなど、適切なタイミングで、より多くの入学希望者と学校に本校の魅力を伝える工夫が必要である。
7-33-2 学校案内等は、志望者・保護者等の立場に立った分かり易いものとなっているか	5	本校では学校案内で教育内容・教育成果を含む学校情報が示されているとともに、募集要項を日本人用と留学生用として2種類作成し、入学希望者に理解できるよう配慮している。デジタル社会の新しい2年制カレッジ像を打ち出すべく、全面的に学校案内を改定した。	今後、WEBを活用した学校案内もさらに充実させていく。
7-33-3 志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制があるか	5	本校には独自の入試・広報窓口があり、志望者等の問い合わせ・相談に対応する体制が整備されている。	特になし
7-33-4 募集定員を満たす募集活動となっているか	5	本校の募集定員は160名であるが、すべての学科・コースで募集定員を満たす出願を得ている。	日本人学生の募集をさらに強化する必要がある。「総入学定員の2分の1を超える留学生受け入れに関する申出書」を提出し定員確保がなされている。コースごとレベルを定め、募集の時点から分野に合った学生の募集に努めている。

7-34 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-34-5 学生募集において、就職実績、資格取得実績、卒業生の活躍等の教育成果は正確に伝えられているか	4	専門学校において就職実績は重要な位置を占めるため、その教育成果は学生募集において正確に伝えられている。資格取得実績は取りまとめられているが、卒業生の活躍等については十分伝えきれていない点がある。	就職実績はもちろん、資格取得実績などの教育成果は集約されているが、卒業生の活躍に関しては、一部の協力してくれる方のみに限られ、全体的な把握が課題となっている。
7-34-6 卒業生の活躍の教育成果が学生募集に貢献したかどうか正しく認識する根拠を持っているか	3	卒業生の活躍の教育成果が学生募集にどう貢献したかを正しく認識する取材などを行っているが、一部に留まっている。	卒業生の活躍の教育成果を学校案内等で正確に伝え、入学希望者の入学決定要因が何であったのかを正しく把握するカウンセリングを引き続き行いまとめていく。

7-35 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-35-7 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	5	入学選考は、書類審査・筆記試験・面接試験と設け、合否判定基準に照らし合わせて適正かつ公平な基準に基づき行われている。	コロナ禍におけるオンライン試験の導入により、人員配置などの見直しを行った。
7-35-8 入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	関係者のみ閲覧可能なデータベースで選考状況を管理し、合否判定会議のたび更新することで、入学選考に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握している。	特になし

7-36 学納金は妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
7-36-9 学納金は、教育内容、学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっているか	4	本校の教育内容に照らし合わせて、学納金は学生および保護者の負担感等を考慮し、妥当なものとなっている。	新コースの設立を機に、教材の ICT 化、実技の展開、教材費の見直しを行った。次年度に向けて適切に運用していく。
7-36-10 学納金に関する情報とその推移を学科ごとに正確に把握しているか	5	募集要項において、初年度学納金とその内訳、2年次の学納金とその内訳を明記し、入学希望者に周知徹底している。	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>本校では外国人留学生も入学することから、その募集と受け入れについては、これまでの成績や本校での学習意欲はもちろん、経費支弁能力までも審査した上での厳しい選抜を実施している。また本校では早めに学生を確保するという観点より、優秀な学生を確実に出席してもらおうという観点で募集戦略を展開しており、各高等学校や日本語学校との関係構築に努め、厳選した指定校推薦制度を導入することによって、確実に質の高い学生の確保に努めている。そういった出席優秀者や成績優秀者には学習奨励制度を設け、人物・成績共に優秀な学生を積極的に受け入れるとともに、がんばった学生はきちんと評価されるということを新入生にもきちんと示し、目標意識の高い学生確保の施策としている。</p> <p>今年度よりオンライン入試制度を導入したが、オンライン・オフライン共に書類審査・筆記試験・面接試験を厳格に行う体制を整備し、合否判定基準に基づいて適正かつ公平な入学選考が行われている。</p> <p>また関係者のみ閲覧可能な入学選考に関するデータベースを管理・更新することで、入学選考に関する情報を一元管理し、その推移を学科ごとに正確に把握している。</p>	<p>2021 年度募集の入学試験合格者のうち日本人比率は 28.6%と例年より日本人募集数は伸ばしたが、まだまだ高いとは言えない状況。数年後に日本人比率を 50%以上にすることが本校の目標であり、現時点での課題といえる。今年度新設したコースでの日本人増を目指して更なる強化をしていく。</p> <p>日本人学生を増やすために、入試広報センターと学校現場が連携を図り、授業や資格対策の状況や学生の様子などを定期的に発信することにより募集活動を改善化していく。コロナ禍で混乱気味の高校 3 年生に対する募集のタイミングなど、高等学校の進路指導に合わせたアプローチを拡大し、ニーズに合わせた情報提供などを推進する。</p> <p>また入試広報センターから志願者に対して、本校の独自性や魅力をきちんと伝えるべく、高校 3 年生・既卒生・留学生を問わず、これまで以上に積極的な学校情報の提供を行い、そのための魅力的なイベント開催を進める必要がある。</p> <p>コロナ禍でのオンライン入試や説明会など、臨機応変に対応した 1 年であったが、その成果と反省をもとに次年度の学生募集・入学試験をさらにブラッシュアップしていきたい。</p>

基準 8 財務

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

8-37 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-37-1 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	中長期的に本校の財政基盤を支えるものは、入学者数によるが、近年入学者数も安定しており、財政基盤も安定していると言える。 新型コロナウイルスの影響により留学生の絶対数が激減している中、日本人志願者の獲得への画策を進め、2021年度は定員充足に至った。	中長期的に本校の財政基盤を安定したものとするためには、入学者の安定確保であり、募集がどれだけ順調に伸びるかが重要である。 今後、コロナ禍で留学生数が減少することもあり日本人入学者の割合をさらに増やし安定的な入学者の確保が急務である。
8-37-2 主要な財務数値に関する情報とその推移を正確に把握しているか	4	本校の主要な財務数値に関する情報とその推移については正確に把握しており、不明瞭な点があればそのつど解決し、修正している。	特になし

8-38 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-38-3 年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものとなっているか	4	本校の年度予算、中期計画は、目的・目標に照らして、有効かつ妥当なものになっている。	特になし
8-38-4 予算は計画に従って妥当に執行されているか	4	予算案に基づいて計画どおりに妥当に執行されている。	特になし

8-39 財務について会計監査が適正におこなわれているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-39-5 財務について会計監査が適正におこなわれているか	5	本校の財務について会計監査は適正におこなわれている。	特になし
8-39-6 会計監査を受ける側・実施する側の責任体制、監査の実施スケジュールは妥当なものか	5	妥当なものとなっており、会計監査実施後、理事、評議員に対しての説明も実施されている。	特になし

8-40 財務情報公開の体制整備はできているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
8-40-7 私立学校法における財務情報公開の体制整備はできているか	5	会計年度の財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて行っている	特になし
8-40-8 私立学校法における財務情報公開の形式は考えられているか	5	同上	特になし

総括	課題及び改善内容
<p>長期的に本校の財政基盤を支えるために、入学者数の安定確保をいかに図るかが重要である。コロナ禍ではあったが定員も充足しその点では安定していると言える。また主要な財務数値に関する情報についても、予算案と齟齬が生じた部分等についてはその都度解決し、修正を行っている。</p> <p>本校の財務について会計監査は適正におこなわれており、会計監査を受ける側・実施する側の責任体制も明確であり、監査の実施スケジュールも妥当なものである。</p> <p>会計年度における財務情報を学校法人 ISI 学園ホームページにて公開している。</p>	<p>今後、コロナ禍で留学生数が減少することもあり日本人入学者の割合をさらに増やし安定的な入学者の確保が急務である。</p>

基準 9 法令等の遵守

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

9-41 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-41-1 法令や専修学校設置基準等が遵守され、適正な運営がなされているか	5	法令や専修学校設置基準等が順守され、適正な運営がなされている。	特になし
9-41-2 法令や専修学校設置基準等の遵守に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	3	幹部教職員への啓発活動は出来ているが、全教職員・学生に対する啓発活動は十分とは言い切れない。	外国人留学生も受け入れていることから、いろいろな面で法令や専修学校設置基準や東京都の指針を順守するようにしている。ただ教職員・学生等への啓発活動はこれから取り組むべき課題である。

9-42 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-42-3 志願者、学生や卒業生および教職員等学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いについて』、『学校法人 ISI 学園個人情報の取扱いに関する同意書』に基づき、学校が保有する個人情報に関し、その保護のための対策を講じている。	学校が保有する個人情報保護のための対策は組織としてはかなり進んでいる。一方一人一人の教職員の意識改革、日常業務での個人情報取扱いに対する改善が課題としてある。
9-42-4 個人情報に関して、教職員・学生等に対する啓発活動を実施しているか	4	当校として個人情報に関する教職員・学生向けへの啓発活動を今後も積極的に取り組む。	個人情報保護に対する教職員の意識は一定レベルにあるが、定期的に教職員・学生等に対する啓発活動をより積極的に実施していく。

9-43 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-43-5 自己点検・自己評価を定期的実施し、問題点の改善に努めているか	4	2015年度より自己点検・自己評価を実施し、問題点の改善に取り組んでいる。	2015年度より自己点検・自己評価を定期的実施すること着手し、現在問題点の改善に努めている。
9-43-6 自己点検・自己評価に関する方針は確立されているか	3	自己点検・自己評価の実施が2015年度からであり、年間スケジュールに組み入れ、全教職員で取り組んでいる。	自己点検・自己評価と学校関係者評価、そして教育活動のPDCAを有機的に組み合わせることが課題である。
9-43-7 自己点検・自己評価に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	4	2015年度より自己点検・自己評価の実施・公開に着手し、その方針は関係者に対して伝わっている。	これから毎年定期的実施するなかで自己点検・自己評価に関する方針を関係者に対して正確に伝えたい。

9-44 自己点検・自己評価結果の公開はしているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
9-44-8 自己点検・自己評価結果は公開しているか	5	学校法人 ISI 学園ホームページに公開している。	
9-44-9 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は確立されているか	5	自己点検・自己評価実施後は、速やかに、学園ホームページに公開することを決めている。	
9-44-10 自己点検・自己評価結果の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっているか	5	自己点検・自己評価の公開に関する方針は関係者に対して正確に伝わっており、外部団体からも評価をいただくようにしている。	

総括	課題及び改善内容
<p>個人情報保護に関する取り組みは学校法人 ISI 学園としても明確に規定を定め、その対策に常に取り組んでいる。当校としては学園の方針、規定に沿って学校が保有する個人情報保護に努めている。</p> <p>自己点検・自己評価の実施が 2015 年度からであり今年度 6 回目を迎える。自己点検・自己評価の実施を重ねる中で方針を明確に確立し、関係者に対して正確に伝えていきたい。そして学外に広く公開することで、いろいろな方々の意見に真摯に耳を傾け、問題点の改善に努めている。</p>	<p>教職員によって意識差があり、総体的に意識向上させるための定期的な啓発活動がこれからの課題である。</p>

基準 10 社会貢献

* 5.達成している 4.ほぼ達成している 3.どちらともいえない 2.取り組みを検討中 1.改善が必要 NA.当てはまらない

10-45 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-1 広く教育機関、企業・団体、および地域との連携・交流を図っているか	4	企業・団体との連携はかなり進んでいる。地域との連携も目白警察署や豊島区、東京都との間で一定成果が見られた。	これから更なる「職業実践専門課程」の認定も視野に入れ、企業との連携を深め、産学接続プログラムの実施を始めていく。
10-45-2 学校の資源を活用し、生涯学習事業や附帯教育事業を行っているか	2	空き教室がまったくなく、週末もオープンキャンパスや教室レンタルを行っているために行えていない。	教職員の出勤体制が整えば今後検討していく。ニーズの強いデジタル分野での付帯教育授業の検討を開始している。
10-45-3 学校の施設・設備を開放するなど、地域社会と連携しているか	3	2020 年度にあっては新型コロナウイルスの影響により TBL 祭などの学校行事が中止となり地域の方、関連団体との連携のできる機会を設けられなかった。	今後はコロナ禍でも実施可能な行事の運営を検討する必要がある。
10-45-4 諸外国の学校などと連携し、留学生の相互の受け入れ、共同研究・開発を行っているか	4	アメリカ、カナダ、イギリス、豪州、ハンガリーなど諸外国の高等教育機関と 2+2 コースを推進している。今年度は、初の交換留学生を送り出し、更なる共同研究・開発が進むものと思われる。 コロナ禍で実施が一時的なできなくなった留学については、実施できる時期になった後、円滑に留学が進められるよう準備を進めている。	ハンガリーの交換留学生の第 1 期生 2 名、2 期生 3 名の実績が出来たため、今後提携校からの交換留学の受入れも進めていく。

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-45-5 重要な社会問題について、学生や教職員に対し啓蒙活動を行っているか	3	防災上の問題については地域と連携し、取り組んでいる。	授業レベルでは各教員が重要な社会問題を扱っているが、学校全体のコンセンサスのもとの取り組みはこれからである。
10-45-6 学校として重要な社会問題に具体的に取り組んでいるか	2	コロナの影響により、例年通りの対応はできなかった。	学校として重要な社会問題に具体的に取り組めていない。他校の先行事例を参考にしながら、学校として重要な社会問題にどう取り組めるか検討する場を設けたい。

10-46 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

点検小項目	評価	現状・具体的な取り組み	課題とその解決策
10-46-7 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	地域の目白警察署、豊島区役所を始めとする関係官公庁とのボランティア活動を奨励、支援を進めてきたが、2020年度はコロナ禍により学生の地域貢献、ボランティア活動が思うように進められない状態であった。	コロナ禍においても可能な活動を熟慮し、学生の参加できるボランティア活動、地域への貢献に何ができるか検討する必要がある。
10-46-8 学生のボランティア活動の状況を把握しているか	3	学校として取り組むボランティア活動の状況は把握している。個別に学生が活動しているものはまだほとんどないのが現状である。	個人面談での聞き取り及び面談記録カードや在籍管理システムにボランティア活動の項目を入れるようにし、記録としている。

総括	課題及び改善内容
<p>重要な社会問題について、学校としてどう取り組み、学生や教職員に対しどう啓蒙活動を行っていくのか現状では十分に組み立てていない。問題意識がないわけではないが、そこまでできるだけ組織体制が未整備である。今後は特に他校の先行事例を参考にしながら具体的にどこから始めるか検討したい。特に 2020 年度は新型コロナウイルスの影響で実施が現実的にできないこともあった。</p>	<p>15 か国の国から学生が集まっている学校であるため、重要な社会問題について各国のバックボーンに気を付ける必要性はあるものの、世界から学生が集うキャンパスだけに重要な社会問題についていろいろな視点から討議する場があることが望ましいとは考えている。一気には難しいが、学校として重要な社会問題に具体的に取り組む礎をまずは作りたい。</p> <p>学校として取り組むボランティア以外に、学生のボランティア活動の状況を把握し、面談記録カード、在籍管理システムに記録として残すことも今後の課題である。</p> <p>今後はコロナ禍においても実施可能なボランティア活動、地域貢献活動についても検討の必要がある。</p>

平成19年の学校教育法改正により専修学校における学校評価が義務化されたことを受け、教育の質保証・向上に資するという観点から本校においても「学校自己点検・自己評価報告書」を作成した。

2020年度の報告書においては、文部科学省が発行する「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に学内に設けた委員会で議論を重ねた結果、以上の通り自己点検・自己評価報告書を作成した。

学校法人ISI学園 専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価報告書を作成するにあたり学内に設けた委員会のメンバーは以下のとおりである。

2021年5月

専門学校東京ビジネス外語カレッジ 自己点検・自己評価委員会

校長	並河 克彦
事務局長	佐藤 貴志
教務副主任	伊藤 玲
教務	川本 千陽
教務	新藤 俊哉
教務	梅田 拓
事務局	白 海蘭
事務局	濱 裕樹
事務局	志田 朱里
事務局	鴫巢 茉奈
キャリアセンター	米村 真識